

令和4年度小松市立国府小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜学年・学級活動を活性化させ、主体的によりよい学校生活にしようとする力を育てる＞		
	・毎学期始めに「国府っ子学習のきまり」の取組を行い、授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気をつくる。学校全体で「ベルスタ・準備・姿勢・あいさつ返事」を児童も教師も大切に する。 ・学級会でやかたシートを使い、学級目標を立て、年間を通して学級目標に迫る。継続的に目標設定と振り返りをくり返し、よりよい学級を児童と作れるようにする。また、学期始めや終わり、行事でも目標を立てたり、自分の学級を振り返ったりする活動を通して、よりよい学級にしようとする児童を育てる。 ・仲間づくり(ハートフルタイム)の取組を行い、教師と児童・児童と児童をつなげるリレーションづくりを行う。年間で計画を立て、学期始めの月(4・5・9・1月)に2回程度行う。 ・たてわり無言そうじを行い、高学年が低・中学年にそうじの仕方を伝え、だれもが気持ちよく過ごせる学校を全校でつくる。 ・学年ごとに実行委員を立ち上げ、主体的に学年行事を運営できるように支援する。		
	(児童会を活性化させ、より良い学校するために主体的に取り組む児童を育てる)		
	[思いやり行動] 児童会活動を通して挨拶を中心に、思いやり行動の大切さを知り、自ら実行しようとする児童を育てる。全校に思いやり行動を広げるために、代表議会で学級をつなげる。 [縦割り活動] 異学年交流を通して高学年のリーダー性を育むと共に、より良い活動をするために考え工夫できる機会とする。また、各学年に応じた縦割り活動の目標を立て、年間6回、国府っ子タイムを使って縦割り遊びを児童主体で行う。 [やかた集会] 児童会を中心に、学校をさらに良くしようという思いを全校で共有したり、頑張っている人を認め合ったり伝えあったりする場とする。学期に一度やかた集会を行う。		
特別支援教育	＜支援を必要とする児童に対して組織的な支援を図る＞ ・1学期中に配慮・支援が必要な児童について担任を中心に実施把握・共通理解を行う。夏休み中に校内委員会を開き、支援策の策定を行う。児童理解の会等で全職員への周知を図る。 ・気づき票を活用すること。支援の結果を常にみとり、その後に生かす。		
道徳教育	(発達段階に応じた道徳教育を推進する) ・児童の実態、発達段階を考慮して、各学年の重点目標を設定する。 ・カリキュラムマップをもとに、重点目標と各教科、特別活動を関連させて道徳教育を行う。 ・校内研修会を行い、授業づくりについて研修する。 ・授業公開やファミリートークの機会を設定し、家庭・地域との連携を図る。		
読書教育	(読書量を確保し、読書の質的な向上を図る) ・読書オリンピックと多読賞を設け、読書に対する意欲を喚起し、読書習慣を育て読書量を確保する。 ・月ごとの貸出冊数データを利用し、学級担任が月1回読書指導を行い、全員月に5冊以上本を借りるようにする。 ・「本のとびら」から選定した各学年の課題図書4冊を1年間で読了する「読む4」の取組を行い、各学期末毎に学級担任と図書担当が読了状況を確認する。 ・図書担当と図書館司書が連携を図り各教科での図書の活用を推進したり、図書委員会主催のビブリオバトルや図書フェスなどの取組を行ったりすることで読書の質的向上を図る。		
保健健康教育	(心身の健康や運動に関心もち、自分の健康への意識向上を図る) ・保健指導や保健委員会の活動を通して、感染症予防に取り組む。 ・体育委員会を主に「レッツスポチャレ」の企画に取り組み、年間を通して運動する機会を作り、体力の向上を図る。 ・電子機器に触れる機会が多くなっている子供たちの目の健康について、育友会と連携し、学校保健委員会で取り上げ、考える機会を作る。 ・週1回のスクールカウンセラーや特別支援教育支援員との情報交換の場や心の相談員との記録ファイルを通して、気になる児童への支援に役立てる。		
情報教育	(ICTの積極的な活用を図る) ・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を進める。 ・授業者は、個別学習、対話的な学習でのICT活用の意図を明確にして、授業をデザインすることができるようになる。 ・児童は、ICTを活用することで、自分の学び方を選び、学びを活かしたり還元したりすることができるようになる。		
家庭・地域との連携	(家庭・地域の力を生かした教育活動の推進) 家庭や地域の力を生かした活動を、教育課程に位置付ける。 ・総合的な学習などで人材を活用する。 ・家庭との双方向の取組を行う。		

学校関係者評価	
---------	--